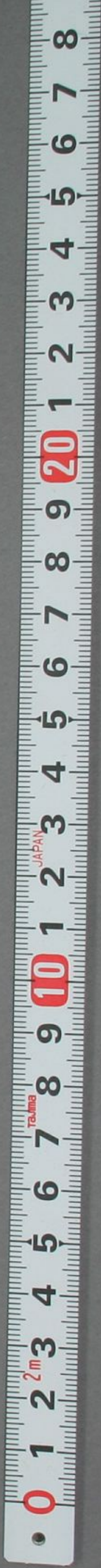


神代心語常盤草
上

リ 5
1582
1



伯耆富延大人著

神代
正統
常經心單
全部
三卷

京都書林 大旨津逮堂藏



神代乃正統常經心單

昔書を記すは、天武天皇大津代禰田の口後乃公卿上
みこしを記すは、天武天皇大津代禰田の口後乃公卿上
しるすは、天武天皇大津代禰田の口後乃公卿上
唱へしは、天武天皇大津代禰田の口後乃公卿上
ふあしは、天武天皇大津代禰田の口後乃公卿上
を記すは、天武天皇大津代禰田の口後乃公卿上
を記すは、天武天皇大津代禰田の口後乃公卿上



うよの巻とやらは〜日ち宮へ願わさるる
のよとて所なり〜天^皇元^正天皇^代はたさるる人
はまよし撰ひのり〜日^本書紀神代卷内
の語をもと又たのりも書紀〜そのあふ
えはし書にん〜され〜一津河原まで
物を〜伊勢は事^代直長大人よ
はまよりの此^事ねい〜とぬら〜神代卷
に今れとつに編〜日^本書紀をよみし鏡
のこたれ〜心^事まよら〜神代卷の事

と二印〜人^代神代巻とよみし書紀
り〜はら書紀ひもいほ〜とよ書紀
藝^代の〜書紀ひもいほ〜とよ書紀
うら市為の〜書紀ひもいほ〜とよ書紀
の人よ書紀ひもいほ〜とよ書紀
つ〜書紀ひもいほ〜とよ書紀
〜神代卷とよみし書紀ひもいほ〜とよ書紀
い〜書紀ひもいほ〜とよ書紀
神代の書〜書紀ひもいほ〜とよ書紀

よのまゝにたれあ出雲七宿祢俊佐大人を
神代篇たりてわりのまゝに其のこゝろに
召法くは神等たけの経ひ一太ふ安ん京
考候しとふくふくこゝろに其のこゝろに
たけのこゝろにわお豊し一か事しと今其の
まゝに准し己の傍にりて其のこゝろに
わりの書けしを大書し其のこゝろに
其のこゝろにわあまをたけのこゝろに

昔は文化に上りて其のこゝろに
しるはたけのこゝろに

そのに宣長翁の神代正譜あり今當延
之の常盤草が根をたけのこゝろに
あゝ飛鳥かからしこゝろに
その根よりしるはたけのこゝろに
今とわりのこゝろに
あゝそのこゝろに
たけのこゝろに
たけのこゝろに

今南無阿弥陀仏と念ふに
 心も静まり身も軽くなり
 世間の事柄も心に掛か
 らず清らかなる心にて
 佛の御書に記されし
 事も心に留まりて
 佛の御書に記されし
 事も心に留まりて

又改十三年

中臣光久

この書とていふは心得事

○後此御書多かる中ふる古事記を別ふる事とて
 まるるぬのかぐみとも本居翁の思われぬ事あり
 神代のはけり先よりかゝる御書あり有状を其ま
 かり記されし事あり御書に記されし事あり
 人の御書に記されし事あり御書に記されし事あり
 多かりけり事あり御書に記されし事あり御書に記されし事あり
 此のことも可畏き自ら外宮の大御言ふたれり事あり
 ありけり事あり御書に記されし事あり御書に記されし事あり
 の事あり御書に記されし事あり御書に記されし事あり御書に記されし事あり
 此の後の事あり御書に記されし事あり御書に記されし事あり御書に記されし事あり
 美味い御書に記されし事あり御書に記されし事あり御書に記されし事あり御書に記されし事あり

○ やゝさね太人の謝し〜
 くら君等の清詞を〜
 時を〜
 神 神産巢日神 高御産巢日神
 百美の神〜
 ありし事〜
 ことおろ〜

○ 天地のぬり〜
 さまおらひ八百美の〜

○ う〜を和同四年〜
 多かれは本居の美御は〜
 天地の中おんて〜
 古きを作き〜
 ちれふ語ふ〜
 の中ふ〜

ねづきしるねをいまの清平准しんてつらつ
 こころ 天皇 雲の上人 將軍の君ふはるの君あ
 ちの武士多ふと九くそふ秀しんくのことくやま
 めむまゝ神くまの清名の多くそのたし
 けつさめを移してまゝしんてまうしんて
 今ふ清切つらつしふ溢あふまをうく准し
 ちんてん

○ ねくまね清代このやましんてむかしのかふ
 のあつねくまうしんの上ふし清神清しん
 ちんてん

○ ちんてん古書のしんてんをけんてんてんてん
 ね乃今ねあふの古事記傳ふけんてんてんてん

一 星しんてんけんてんてんてんてんてん
 奇しく妙ねまももをけんてんてんてん
 くらしく云さうんあつけねき多延うあねん
 りて神のしんてんてんてんてんてんてん
 をねんかんてんてんてんてんてんてん
 清平ねんてんてんてんてんてんてん
 ねんてんてんてんてんてんてんてん
 ちんてんてんてんてんてんてんてん
 ねの今ねあふねんてんてんてんてん
 うつてんてんてんてんてんてんてん
 ちんてんてんてんてんてんてんてん

○ 本居宣長系ハ伊勢のふ飯多郡松坂のね平氏

ゆゑんしやてぶのなをに終の令とてんるゆゑふぬ
ことの名をそんたさるしーまうし終のかつれり
居並けりぬ

○俊信大人も出雲のふ杵築の國ノ造の身天之善
早命の侍子孫ふくし加へる宿祢との名も
清まおめ跡ハ梅之令とてんるゆゑふぬしーこと
かまうてせうとてんるゆゑふぬしーこと
○ふあつけぬも准へるゆゑふぬしーこと
りりてふうのゆゑふぬしーこと居並けりぬ

神代正法と巻

○いりちれとめりなり

天地乃とどれとてんる天取
ななりまをり神のゆゑハ天之
神中主神次よる高御産日
神次よ神産巢日神け三桓
乃神ハ三桓ひりり神成坐
て。高御産日神ハ三桓ひりり
かふいませごりて。高御
のど。大空水月如漂



△天地とてんるのこなり

○あまのこ 葦原のえの約てぬむの
考とてんる天つ神等れ住せのふれ國とてんる
ひ其けりぬしーこと○地とてんるの
きてあれりりててんる豆の遅のゆゑ
りりちる名をへること○八百の
國山川海里とてんる大地のれての名あり
○高天原とてんる○空とてんる
○天のあと省てりり原とてんる平
とてんるゆゑふぬしーこと○神とてんる
ててんるゆゑふぬしーこととてんる
○あつちのれがらちとてんるゆゑふぬしーこと
○天とてんるゆゑふぬしーこと○天とてんる
御中主神○三桓とてんるゆゑふぬしーこと
主とてんるゆゑふぬしーこと○たつちの家
主とてんるゆゑふぬしーこと○高御産日神
主とてんるゆゑふぬしーこと○目とてんる
又とてんる八百のゆゑふぬしーこと

◎天之御中主神

◎高御産巢日神
又高木神

◎神産巢日神

よる時^{とき}もその^{なり}華^{はな}牙^はの
 如^{ごと}前^{まへ}騰^{たか}あ^ありて^{なり}成^{なり}
 坐^ます神^{かみ}乃^こ涉^ま名^なは^は宇^う麻^ま志^し
 阿^あ比^ひ何^ひ備^び古^こ色^{しき}神^{かみ}次^{つぎ}は^は大^{おほ}
 の^と常^{とこ}立^た神^{かみ}比^ひ二^{ふた}ご^ごら^ら此^こ神^{かみ}も
 乃^な神^{かみ}別^{わか}天^{あま}神^{かみ}
 乃^な神^{かみ}別^{わか}天^{あま}神^{かみ}

すび。神産巢日。かこむす
 び。浮胎。うたあぐ。あ
 一。かび。かど清。びを濁。ふ。
 別。い。と。天神。は。塔。あ。ま。う。こ。
 此。原。い。ま。ま。く。く。つ。ち。れ。り。
 め。と。清。い。は。つ。く。る。り。な。浮。胎。
 乃。と。た。ご。る。相。い。す。あ。ら。天。地。
 又。な。る。ぶ。ま。相。い。て。ぞ。れ。か。れ。て。
 あ。ぐ。び。の。ご。と。も。あ。ぐ。り。し。天。と
 ろ。り。の。ご。と。も。あ。ぐ。り。し。地。と。あ。ぐ。り。

すび。神産巢日。かこむす
 び。浮胎。うたあぐ。あ
 一。かび。かど清。びを濁。ふ。
 別。い。と。天神。は。塔。あ。ま。う。こ。
 此。原。い。ま。ま。く。く。つ。ち。れ。り。
 め。と。清。い。は。つ。く。る。り。な。浮。胎。
 乃。と。た。ご。る。相。い。す。あ。ら。天。地。
 又。な。る。ぶ。ま。相。い。て。ぞ。れ。か。れ。て。
 あ。ぐ。び。の。ご。と。も。あ。ぐ。り。し。天。と
 ろ。り。の。ご。と。も。あ。ぐ。り。し。地。と。あ。ぐ。り。

霊のりては神なりてあふりの中主神
 のたりふらまはれ神の○神産巢日神
 ①目よるえい八百あのおたまりの
 奇妙なる霊のりては神なりてあふり天
 之も中主命は右より左に神なり此意
 とんふけらへていづれ神のま中より
 手の左より右よりいづれ神のま中より
 色の三柱は神のりてあふり天と地と
 天は基は大神の○はいづれ神のりてあ
 ②神世七代のころふ男女三柱の代あり
 といはれ独つあらるまといふは本独神とい
 今も独子といふをぞ准あといふ○は
 男と女とけいひきと○は力と人のあ
 らるまといふを○は國の推くを
 といはれ独つあらるまといふは本独神とい
 時ふら③天は水月をいづれ神のりてあ
 といはれ独つあらるまといふは本独神とい

すび。神産巢日。かこむす
 び。浮胎。うたあぐ。あ
 一。かび。かど清。びを濁。ふ。
 別。い。と。天神。は。塔。あ。ま。う。こ。
 此。原。い。ま。ま。く。く。つ。ち。れ。り。
 め。と。清。い。は。つ。く。る。り。な。浮。胎。
 乃。と。た。ご。る。相。い。す。あ。ら。天。地。
 又。な。る。ぶ。ま。相。い。て。ぞ。れ。か。れ。て。
 あ。ぐ。び。の。ご。と。も。あ。ぐ。り。し。天。と
 ろ。り。の。ご。と。も。あ。ぐ。り。し。地。と。あ。ぐ。り。

高天原
三柱の神等
かのつらあは
色紙入局

高御産巢日神

天之御中生神

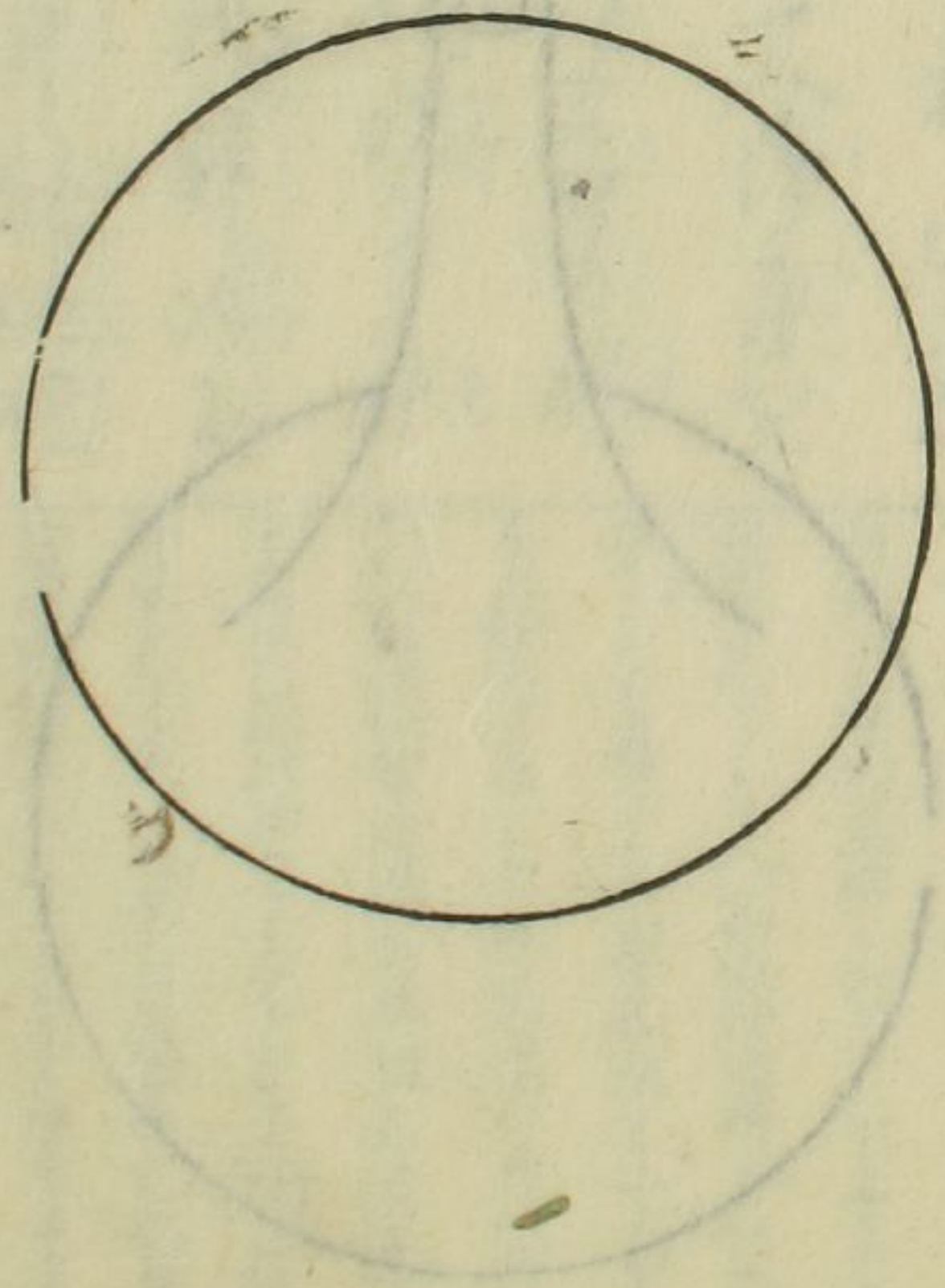
神産巢日神

三柱乃神の由きふ
よりて字胸乃そく
大そふらびきす
とびよるものなま
そり大湯くそり

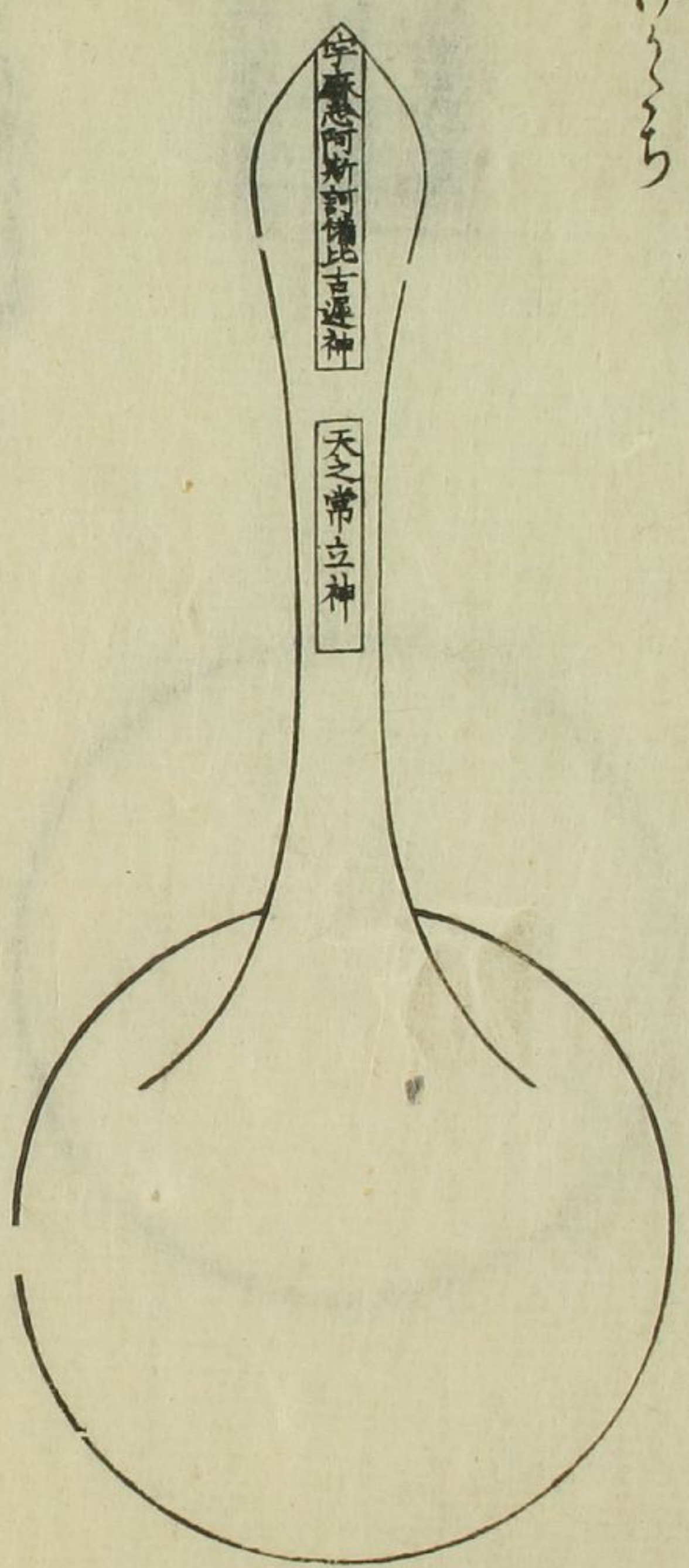
高御産巢日神

天之御中生神

神産巢日神



漂るもの中より
 華牙れよくと見え
 ある相よりとす
 二板乃神成を
 大沸く



○國之常立神

○豊垂野神

○宇比地通神
 須比智通神

○角杵神
 活杵神

神代七世代々

次よなりませる神乃海名ハ國之
 常立神次よ豊垂野神ハ二柱
 乃神也福神なりませりて海身を
 賜ひ給ふ次よなりませる神
 の海名ハ宇比地通神次よ妹
 須比智通神次よ角杵神次よ
 活杵神次よ妹乃海名ハ
 院極神次よ妹乃海名ハ

△神世七代の

○國之常立神ハ天のこま立神の
 ○豊垂野神ハ
 ○宇比地通神ハ
 ○活杵神ハ

意富斗能地神
大斗乃辯神

神次イ邪那岐神次イ妹伊那
那美神。

淤母陀琉神

野ハ等々。ひぢらひひと清ぢ
と濁。姉ハ等々。角を

阿夜訶志古泥神

は。ひ。ぬ。

伊邪那岐神

伊邪那美神

このをりクエのこくろのこま
と伊國之常立神より伊邪那
美神まであをせて神世七代と
申す。よレ二柱を。獨神あつく
一代とま申。次より並坐十
柱を。あつく二つとあをせて

て一代とま申す。

此のあづきいざの二柱乃神
乃成坐るまでなや此地を
推りてたより一町なり。

○おのさくまは版

こつにふれ天神もろく此命ち
て伊邪那岐命伊邪那美命二柱
神は此の漂る國を造りたり。
賜せしものをらてまはぬ
とたしひく事倭一様いふ故

○二柱の神をもち暗のこくろ
りは小坂を果日の垂ははく疑一故用の生也
こくろ又生活こくろをたらすはむい一太神は
○意富斗能地神のあはらたつと斗い処と云
まはらるゝのてふそと地ハ男神のまへと云
たまは辨神の○辨は女をたふと云即貴神
通すことこそ○此二柱の神はあつらるる
ふいれを後小坂伊邪那美二柱の大神はあま
やそ國所をさるはれりつらたつてかか
せしは名も也○淤母陀琉神の○あまの
面のいづれも足らひふよりてかか
○阿夜訶志古泥神の○あやの
辭かこの俗はあまをさるはれりつらたつて
○二柱の神はあつらるるはむい足らひ
あつては辨のあまをさるはれりつらたつて
神とせしは名も也○伊邪那岐神と
伊邪那美神のあはらたつはこくろをもち

○伊邪那美神は流いさまひ女とあつて
のめははれりつらたつては二柱の神は
備合せんと流すはむい足らひ
こくろ○こくろの神はあつては暗のこく
かろのこくろのこくろをさるはれりつらたつ
はれりつらたつてはこくろをさるはれりつら
はれりつらたつてはこくろをさるはれりつら
はれりつらたつてはこくろをさるはれりつら
△かのさる島のこくろ

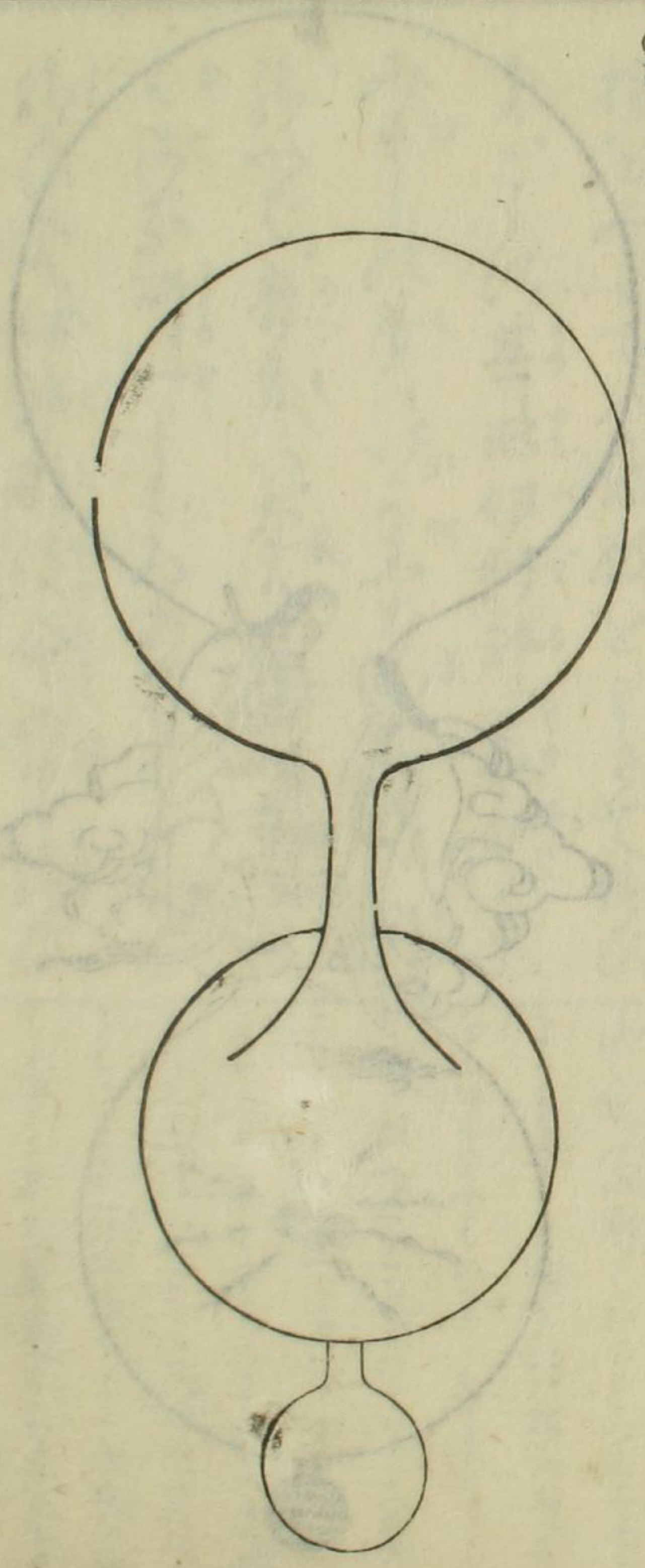
○爰ふかの天の神のあまのさるはれりつら
地のこくろはれりつらたつては二柱の神は
の神はあつてはこくろをさるはれりつら
神は此の漂る國を造りたり。○あまの
かろのこくろのこくろをさるはれりつら
國のこくろ○今山川海より八百あるをて
る大地のこくろをさるはれりつらたつては
さるはれりつらたつてはこくろをさるはれり
有るに○加レ二柱の神はあつてはこくろを

二柱神天乃浮橋よたしそ
立
 ぬわことさきりあうてうたあず
浮 脂
 なをる相とうさゆもあかこを
潮
 ろくくしーかきりてしとゆふ
書 成
 けふ其骨れさゆりあふゆ志
滴 潮
 不りてさよれるこれあろご
積 能 基
 ろしまれと

ろしまれと
 ろしまれと

二柱神天乃浮橋よたしそ
 ぬわことさきりあうてうたあず
 なをる相とうさゆもあかこを
 ろくくしーかきりてしとゆふ
 けふ其骨れさゆりあふゆ志
 不りてさよれるこれあろご
 ろしまれと

あらひの
 ありまたよののり
 漏れらるるのり
 のありあめーうさ



がみ乃成あまのりつとて後をみま身 餘 汝
し此身乃なりけりたをり所よ成 合 刺
し事なきてまうこなきむ塞 生 成
あふとつみとみりたまはば奈何 詔 申
なご此命あうよろむとま然 善
あひふとみりたまの命ゆこま 吾
まとみりしとてけり此後汝 逢 行
ゆきさかりけりけり美斗廻 逢 行
まははせなとるをみりたぐ 此 契
くつひちざりてすまひらみ此 言 契 汝

恒久洗真のまひまふん○ちざりて○替ひの
四約速す○にのや
しえとと又えとととと仰
られし土満洗あまのし○
あまのしなかりあまのし添て
ら歎息の辞直に此喜の字は○
らうそとひまふち古言夜
志の助辞えの住吉日吉か○
吉ふて古ふたをを愛○
らう少男少女ととのま○
うくあふこのまふ○
き鶴鶴飛ま首尾とに○
けをらんすひとす○
ま○此もまふあふれ○
産巢日神の産ふよ○
○後わすれまふと○

いみさりよりめがりあへ右 廻 逢 吾
ひりよりめがりあへ左 廻 逢 吾
あひちざりて契 竟 廻
あふ伊那美命まづおれ可愛 壯 夫
やいえとととととととと可愛 壯 夫
あふれぎの歌あまのや可愛 壯 夫
をまよと乃またまひ少女 詔
くみりたまひをへ詔 竟 先
其妹よとととととととと不祥
あまをびととととととと不祥

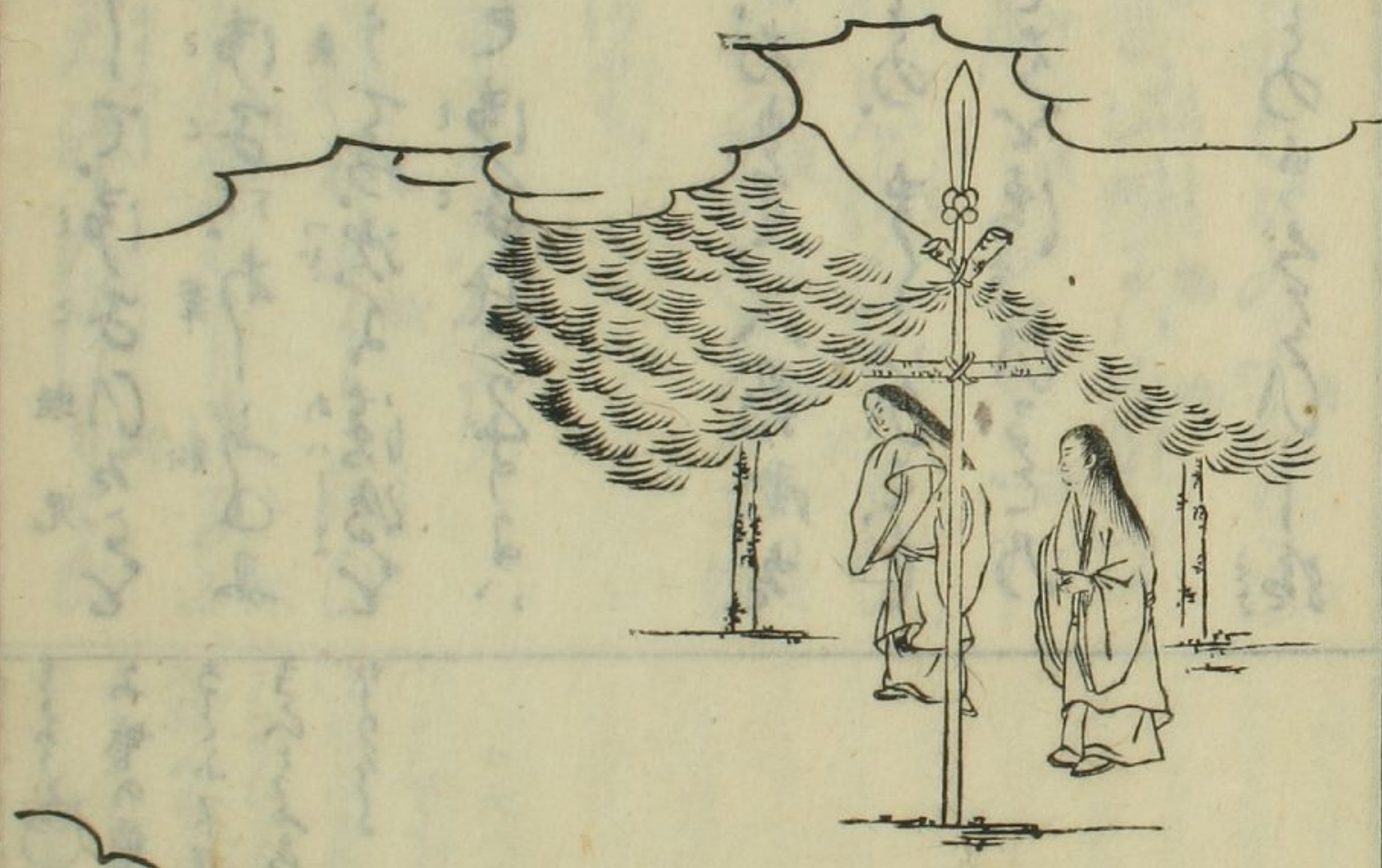
あまをびととととととと○伊
邪那美命夫神より○
し言葉とととととと○
あふまふとととととと○
とととととととととと○
し御子蛭見とととととと○
此御子のあふ○
とととととととととと○
時とととととととと○
骨のなき怪あま○
とととととととととと○
し草をたぐ○
とととととととととと○
しとととととととと○
とととととととととと○
故小洗鳥と名はけ○
洗の西北の方あ○

水

池

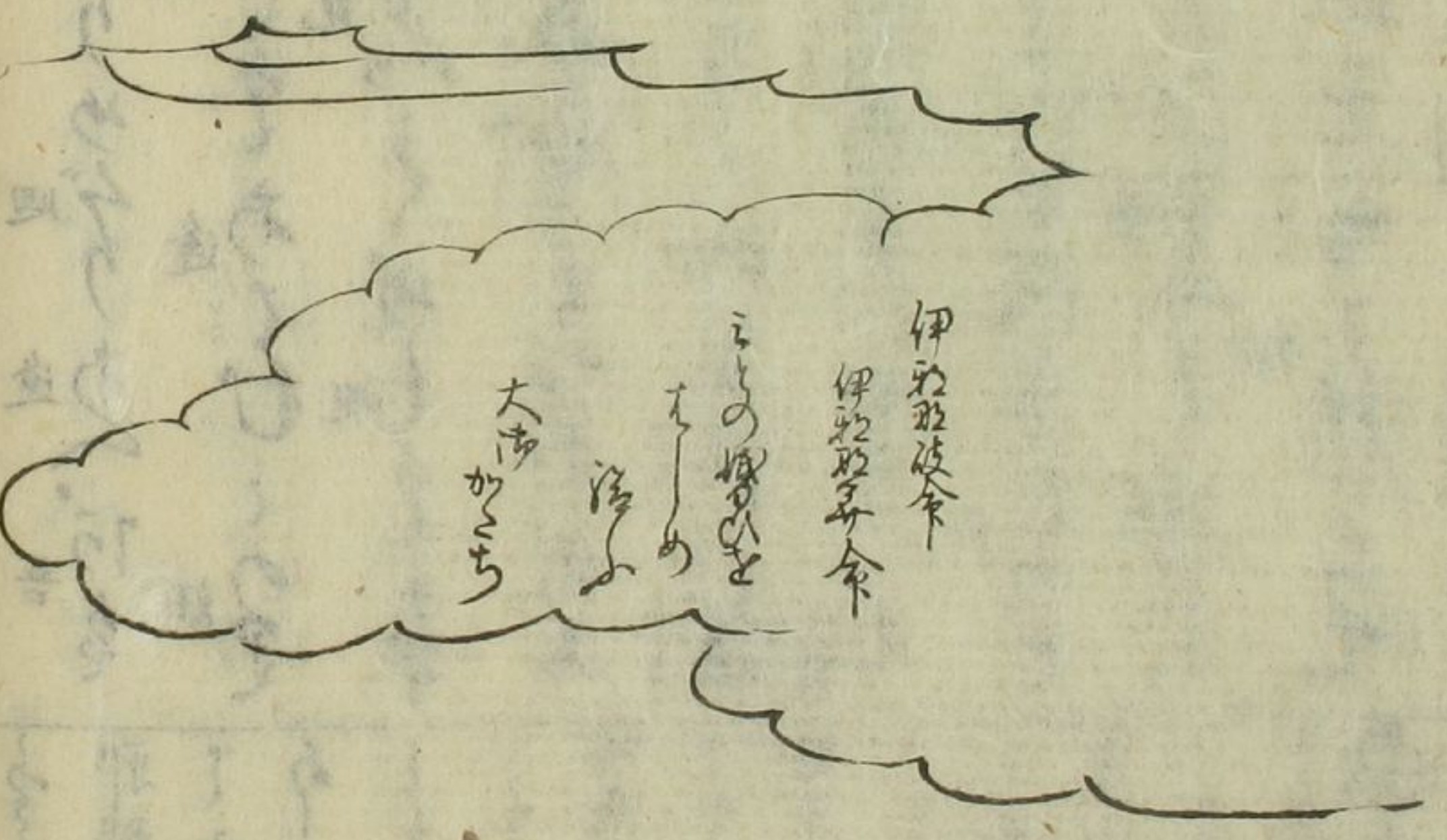
水
池
の
ま
は
た
は
水
の
あ
か
り
を
ま
は
た
す
と
い
は
れ
る

大
の
み
や
の
ま
は
た
は
水
の
あ
か
り
を
ま
は
た
す
と
い
は
れ
る
大
の
み
や
の
ま
は
た
は
水
の
あ
か
り
を
ま
は
た
す
と
い
は
れ
る



上九

大
の
み
や
の
ま
は
た
は
水
の
あ
か
り
を
ま
は
た
す
と
い
は
れ
る
大
の
み
や
の
ま
は
た
は
水
の
あ
か
り
を
ま
は
た
す
と
い
は
れ
る



水煙子

淡島

右の伊勢の命
伊勢の命
大御心の叶はる
ゆゑは清子其教
よつと文

久美度よせりて清子ひるこ
生後ひふけ清子ハあぶら
いまで清うてつ次は清子
生後ひふこも清子れうすま
いず。

天降ハおのり。ハ島敵を。
やひらあ。まぐひたを
と湯アを清。ひるこ乃
ご湯。

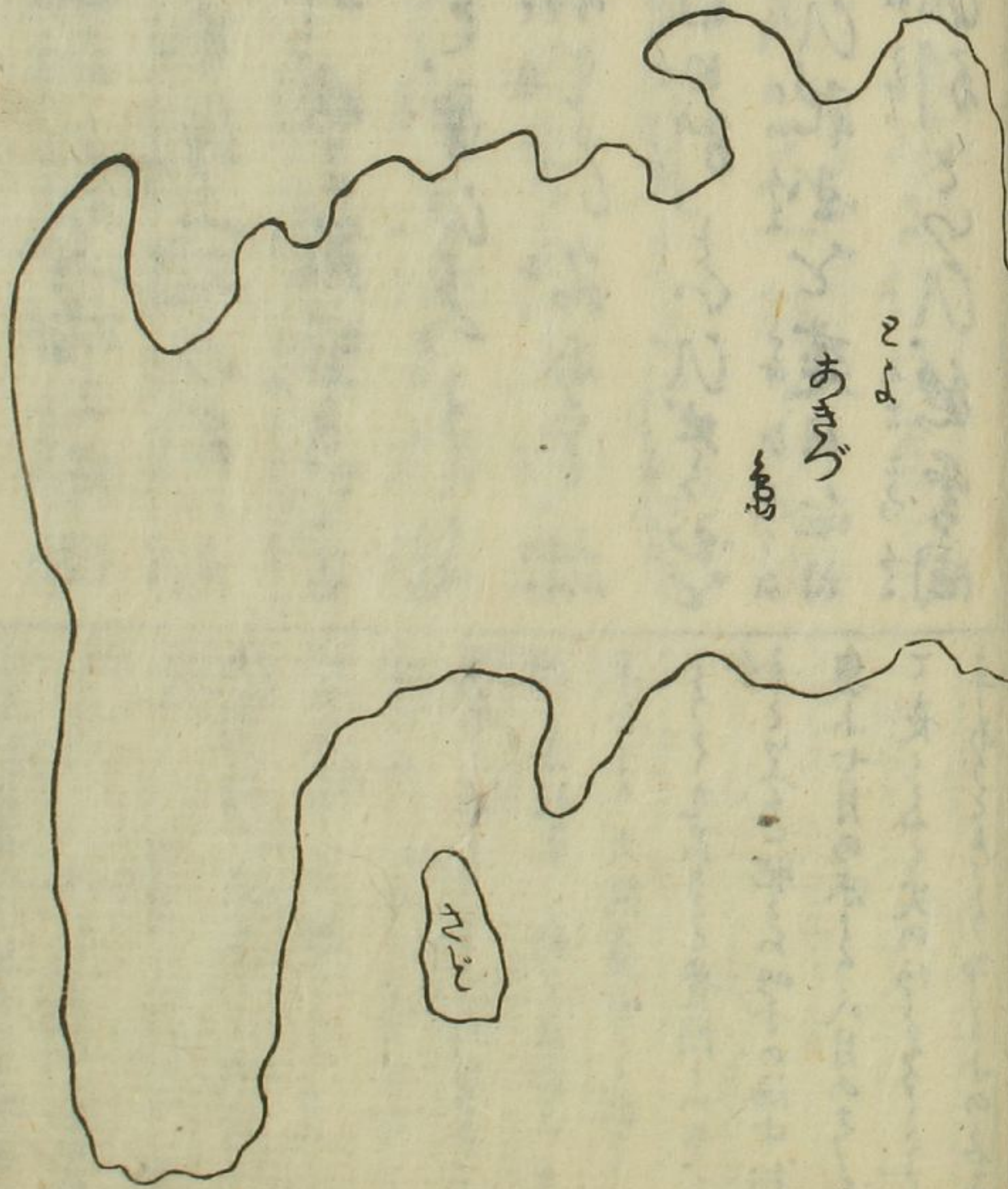
又ハ二柱神とのまがをひし

とむとやうとそそのすべを志
聖路をきりき。けつとく鶴
死来く。も尾うらとこう
き。故ニ柱神見後ひるそは
なひひるぞ。その道知
ひるる。とそいひ。

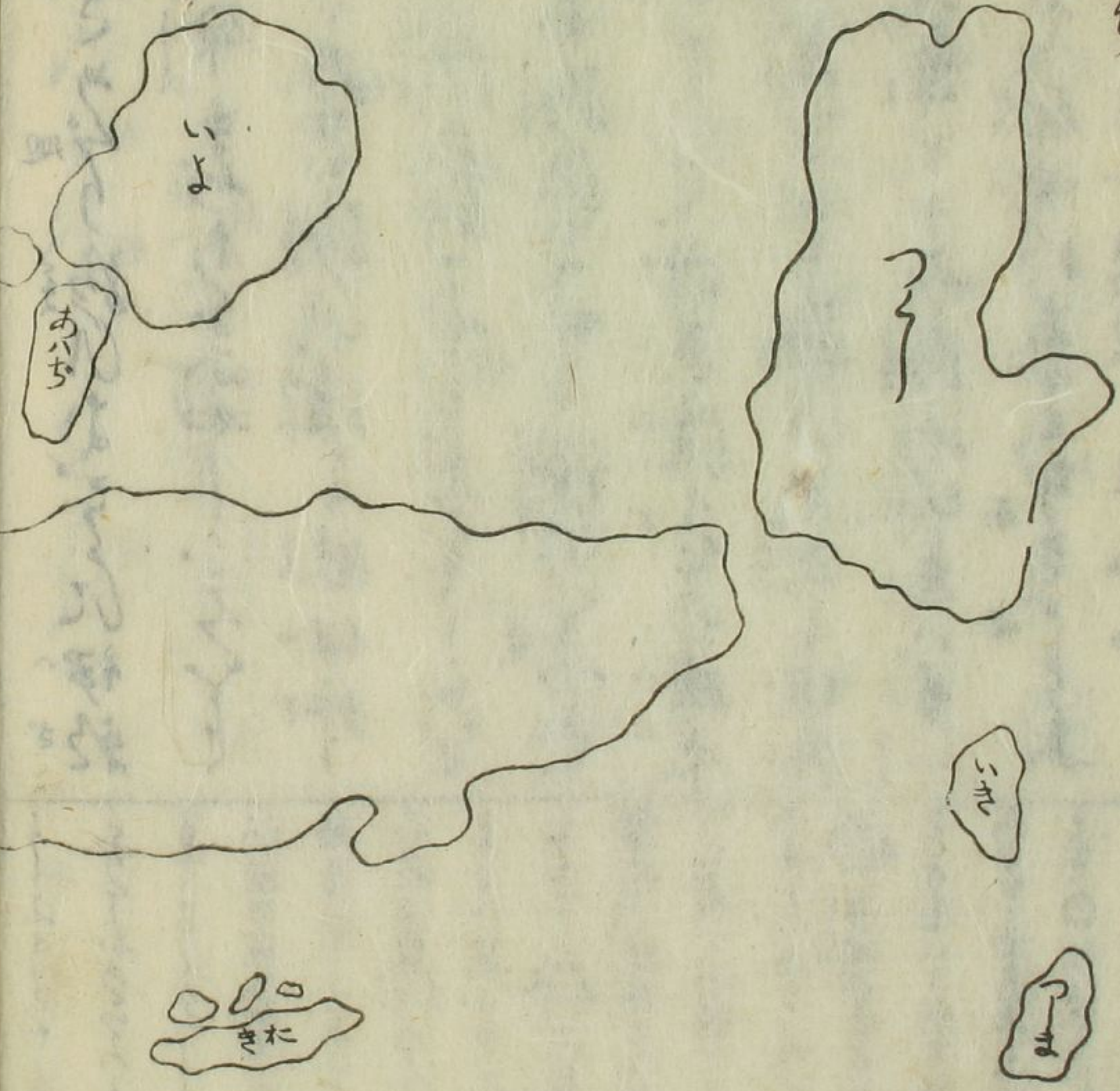
○大八嶋なをいそ乃らざり
うにニをら此神をり
了く。今何がらあやうし清子ふ
とりだ。なが天神の清中へに

此世の有り
上層の禮こと
うこふ不祥の相
たし
かり

△大八嶋なをいそ乃らざり
○七かりとそいひ
○太占ト合とそいひ
○二柱の
大神ゆをこと
とすれを清る
とすれを清る
とすれを清る



大八島あり
いんげんもち



淡道

伊豫之三名島

隠伎島

筑紫島

伊伎島

淡道... 伊伎島... 筑紫島... 隠伎島... 伊豫之三名島... 淡道... 伊伎島... 筑紫島... 隠伎島... 伊豫之三名島...

津島

佐度島

豊秋津島

これと大八島
ふとよ

津島... 佐度島... 豊秋津島... 津島... 佐度島... 豊秋津島...

あまぎれき通 枯は乃

○隠岐の三子... 筑紫島... 伊伎島... 豊秋津島... 津島... 佐度島... 豊秋津島...

○伊伎島... 津島... 佐度島... 豊秋津島... 津島... 佐度島... 豊秋津島...

げも濁るすづくにらざらや
りる皆同ド。大八島
乃く清。

も
二柱の天神寺ぬちと
をりしかきささしりひの時
為すうてさう固まりりりり
りん

児島

作夜急乃亦名いんす。
又ハ隱伎島と作夜急と。雙
不生海ふともあり。
さて清の座。甘。吉備の
児島と生海ふ又の名ハ建日
市別とふ。次ハ小豆島と生
海ふ。また此名ハ大形は清貴

小豆島

大島

とふ。次ハ大島と生海ふ。又の名
ハ大島麻呂別とふ。次ハ日女
島と生海ふ。又の名ハ天一根とふ
ふ。浪ハ知河急と生たきふ。又乃
名ハ天之恩男とふ。次ハあつ急
と生海ふ。又の名ハ天あつ急とふ

日女島

知詞島

両児島

吉備乃児島より。天あつ急と
であつ急とふ。此乃くは小島ハこれ

子とふ。

○伊弉那岐命
伊弉那美命

大綿津見神
みつのみかり

速秋津日子神
速秋津日賣神
すみあきのひめ

志那都比古神
しなのひめ

久久能智神
きくのち

大山津見神
おほのつみ

鹿屋野比賣神
かみやのひめ

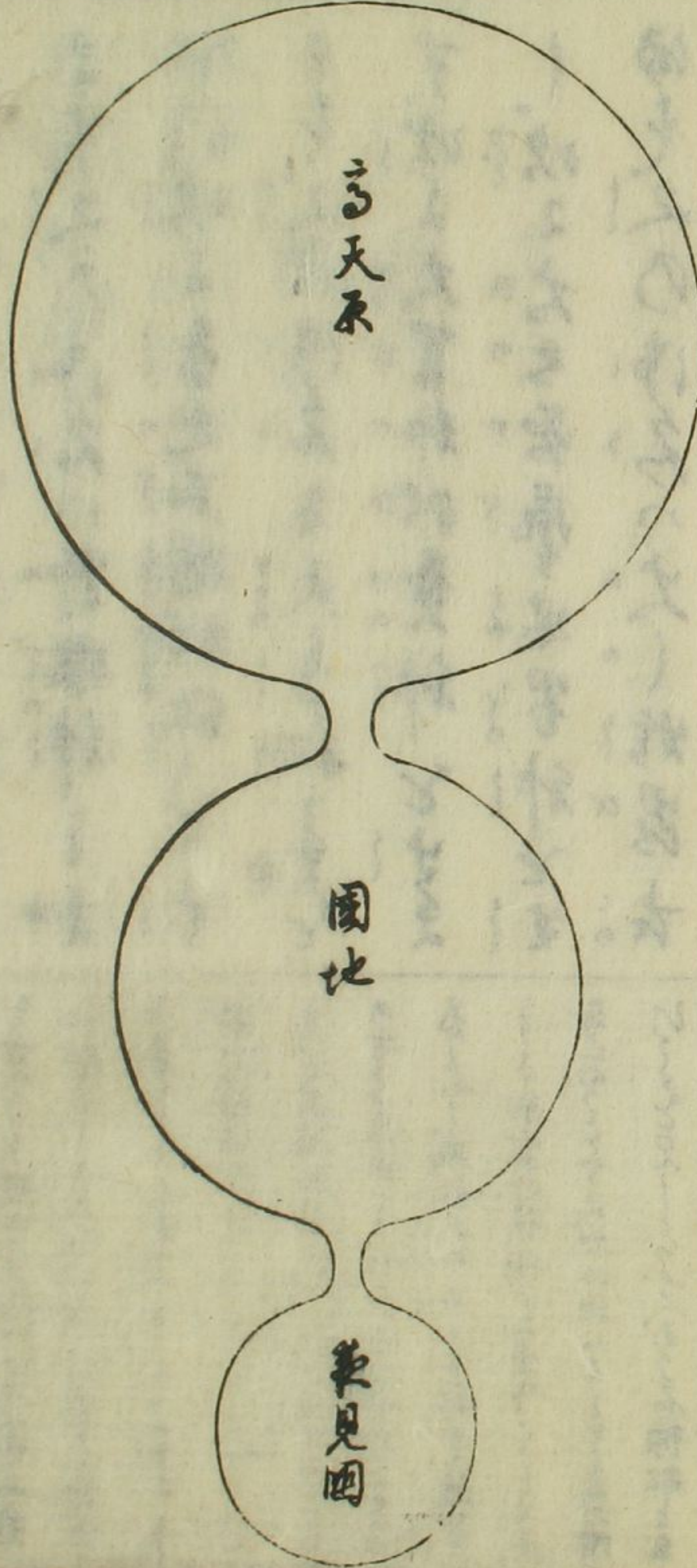
鳥之石楠舟神

潮乃沫此なりてなるなり

○諸乃神より生座より此辰

すくふ國をみよきくさくすくふ神
よしまひの海神 湯名ハ大綿
津見神 湯名ハ速秋津日子神 湯名ハ志那都比古神
湯名ハ久久能智神 湯名ハ大山津見神

葦原のひめと云く萌勝すといふ天原と云く
くげなすたると云く抱ひあはれと云く其
沼よりあはれと云く葦原と云く其は



▲諸の神より生座のころ

○海神大綿津見神 真綿説綿ハ海
津ハ助辞足持の約ころりて海持と
りあそころり ○水戸神速秋津日子神
さくろふふいとのをひてその戸口とふと
く秋川日赤と倍をひて清明ささ
らきと倍といはして伊豆もあき豆とふ
ささころり ○志那都比古神 級と
息長とくろころり 助字比古
男の務へまう伊弉那岐命の務を吹
くろひとすい一時の息よりなりとせ
る風の并と ○久久能智神 久々の
葦原のつまといふと云く智の男と云
くみよ木の但神と云く ○大山津見

弥都波能女神
和久産巢日神
此二神大尿よ
かりませる

豊宇氣毘賣神
任務外宿よ
三よりまきて
敷物とちり
たの神より

○伊邪那岐命
女神のたまは
とがまてし
成するなり
泣澤女神
赤乃乃尾
赤乃小坐

毘賣神 此二柱の神ハ
次ノ厄にかりませる神乃
乃神ハ大神とませる
て。此のよかきとせり
乃神ハ大神とませる
乃神ハ大神とませる
乃神ハ大神とませる
乃神ハ大神とませる

毘賣神 此二柱の神ハ
國大縣郡小社あり又美濃國不破郡仲
山社 ○波夜須夜須毘賣古波
夜須夜須毘賣二柱の神ハ
此二柱の神ハ
此二柱の神ハ
此二柱の神ハ
此二柱の神ハ

上件ハ伊邪那岐命乃
乃神ハ大神とませる
乃神ハ大神とませる
乃神ハ大神とませる
乃神ハ大神とませる
乃神ハ大神とませる
乃神ハ大神とませる
乃神ハ大神とませる
乃神ハ大神とませる
乃神ハ大神とませる

此二柱の神ハ
此二柱の神ハ
此二柱の神ハ
此二柱の神ハ
此二柱の神ハ
此二柱の神ハ
此二柱の神ハ
此二柱の神ハ
此二柱の神ハ
此二柱の神ハ

天之尾張神
又威稜之尾張神
伊弉伊弉
伊弉伊弉
伊弉伊弉
伊弉伊弉

石拆神
大の神乃伊弉
伊弉伊弉
伊弉伊弉
伊弉伊弉

根拆神
左不日

石筒之男神
左不日

天 成
なまき 伊弉伊弉 伊弉伊弉
神ハ 香乃乃 威尾の 威中
伊弉伊弉 伊弉伊弉 伊弉伊弉
伊弉伊弉 伊弉伊弉 伊弉伊弉
伊弉伊弉 伊弉伊弉 伊弉伊弉
伊弉伊弉 伊弉伊弉 伊弉伊弉

かぐ山乃く 伊伎い
又本國乃 能伊伎
伊弉伊弉 伊弉伊弉
伊弉伊弉 伊弉伊弉
伊弉伊弉 伊弉伊弉
伊弉伊弉 伊弉伊弉

祭 又 又 又 又
伊弉伊弉 伊弉伊弉
伊弉伊弉 伊弉伊弉
伊弉伊弉 伊弉伊弉
伊弉伊弉 伊弉伊弉
伊弉伊弉 伊弉伊弉
伊弉伊弉 伊弉伊弉

大和國十市郡
比婆の山
伊弉伊弉
伊弉伊弉
伊弉伊弉
伊弉伊弉

伊弉伊弉
伊弉伊弉
伊弉伊弉
伊弉伊弉
伊弉伊弉
伊弉伊弉

伊弉伊弉
伊弉伊弉
伊弉伊弉
伊弉伊弉
伊弉伊弉
伊弉伊弉

甕速日神

山俣の布つる
如く成坐

攝速日神

右ふ回

建御雷之男神

又建布都神
又建布都神

右ふ回

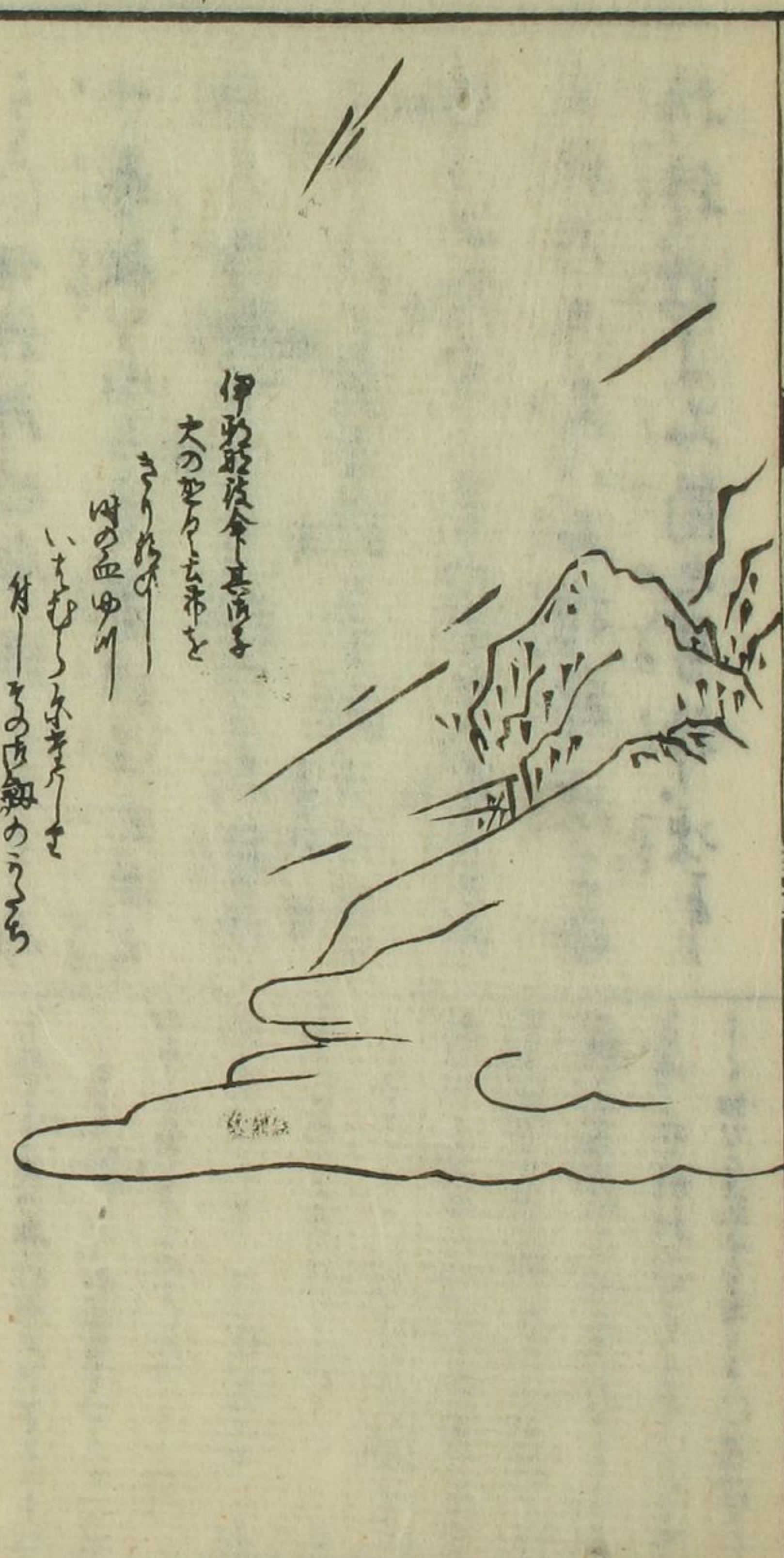
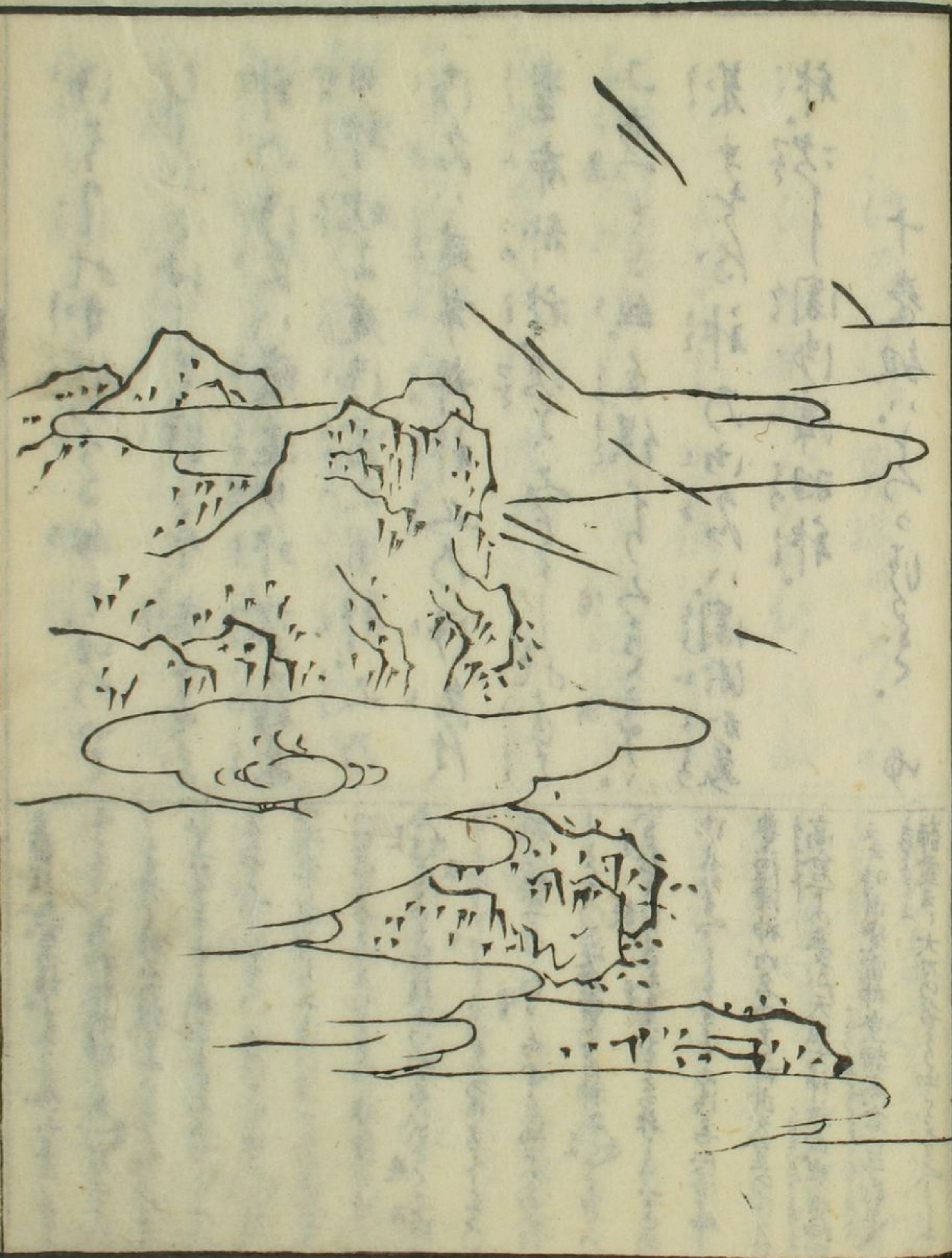
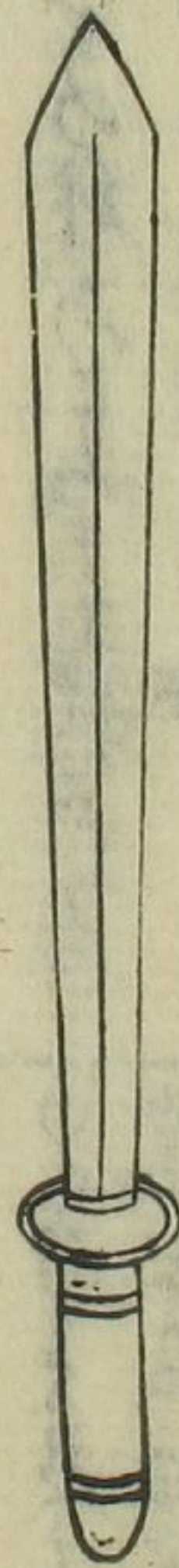
闇淤加美神

山々のふみ
血を候より
て成坐

闇御津羽神

右ふ回

伊勢神宮
大の御戸を
きりぬり
血の血ゆり
いさむらふきり
神一子の御紐のうら



關山津見神
四ツ子成坐

志藝山津見神
左の山より成坐

羽山津見神
右の山より成坐

原山津見神
左の山より成坐

戸山津見神
右の山より成坐

見神。次乃伊腹なるをまをる神の
名ハ。奥山津見神。次乃伊腹なるを
まをる神の。名ハ。關山津見神。
次乃伊腹なるをまをる神。乃伊
名ハ。志藝山津見神。次乃伊腹
なるをまをる神の。名ハ。羽山津見神。
次乃伊腹なるをまをる神の。名ハ。原山津見神。
次乃伊腹なるをまをる神の。名ハ。戸山津見神。

山のこゝやうんを此八柱いづれ
しんしん一の神は志方よりなる
世に神なるかろい名ハ。關山津見神
と云ふ。○天尾羽張神
の志方一の尾羽張神といふ。○天
も嚴も徳もいづれ一神なるを
と云ふ。伊腹の志方一神なるを
と云ふ。伊腹の志方一神なるを

不弟なる。此名ハ。天之尾羽張神
と云ふ。又。此名ハ。伊乃をいづれ
と云ふ。

伊乃をいづれ。 乃乃乃乃乃
かりと皆同じ。

○觀見乃國此なり

見。其妹伊那那美命と云ふ
見。其妹伊那那美命と云ふ。其
名ハ。伊乃をいづれ。其名ハ。伊
乃をいづれ。其名ハ。伊乃をいづれ。

▲夜見のむねなり

○伊那那美命をいづれ。其名ハ。伊
乃をいづれ。其名ハ。伊乃をいづれ。
つとま。夜見のむねの國をいづれ。
堅洲國をいづれ。其名ハ。伊乃をいづれ。
其名ハ。伊乃をいづれ。其名ハ。伊乃をいづれ。
其名ハ。伊乃をいづれ。其名ハ。伊乃をいづれ。

伊邪那岐命

意富如牟豆命
桃の神の言

道敷大神
又道反之大神
又塞坐黄泉大神
これハ門石の
神の言なり

あひごふ^逃げいで^行ます^もし^のこ^ら又^も後^のよ^ら
 と^か乃^ハ八^ヤと^れれ^雷つ^るち^神し^し
 五^い百^ハ乃^ハよ^ハも^ハつ^雷ま^をそ^副く^道つ^く
 し^れれ^故う^れれ^佩ら^るる^十拳^奉
 け^らら^後と^手ゆ^揮え^てま^るる^人で^ふふ^と
 き^つつ^逃ま^来せ^らる^とね^らて^く
 黄^黄泉^泉平^平坂^坂乃^乃坂^坂中^中に^につ^つり^り
 その^侍坂^擊中^擊なり^{なり}桃^桃乃^乃美^美と^とつ^つり^り
 て^待ま^待ら^待う^待ち^待ひ^待ら^待ふ^待こと^待と^待く^待
 に^希返^返り^返き^返こ^返ふ^返伊^伊邪^邪那^那岐^岐命^命

命^命桃^桃乃^乃美^美と^とつ^つり^り
 す^有が^頭ら^見う^見ご^見と^見華^華原^原中^中に^につ^つり^り
 ゆ^有ら^頭ら^見う^見ご^見と^見華^華原^原中^中に^につ^つり^り
 小^有な^頭ら^見う^見ご^見と^見華^華原^原中^中に^につ^つり^り
 くら^有ら^頭ら^見う^見ご^見と^見華^華原^原中^中に^につ^つり^り
 年^有豆^頭美^頭乃^頭と^頭つ^頭り^頭美^頭命^命
 自^有ら^頭ら^見う^見ご^見と^見華^華原^原中^中に^につ^つり^り
 ち^有ら^頭ら^見う^見ご^見と^見華^華原^原中^中に^につ^つり^り
 き^有ら^頭ら^見う^見ご^見と^見華^華原^原中^中に^につ^つり^り

○許登度と
夫婦の丈と絶の證れ
○一日ふかき
千人死一日ふかき
○二柱のち神はちひ
よりて毎日死^る人^數より生^る人^數
のまきとつ^りか^へ一日^らつ^り
量^ふか^のあ^ひけ^かる^もあ^らう
て日^とさ^りの^の國^地と^致て
大^きく^と早^く旋^ると^はい^はる
大^光を^そら^けと^つり^てあ^らう
う^日昼^夜の^とち^らち^有め^へ○
道敷大神と伊邪那美命の
つ^りて^ま神^ふ追^付め^らる^も
より^及の^まは^思借^{かり}と^そ○
道反之大神と女神と塞て返
り^てま^つり^の言^{なり}と^そ○

○塞坐黄泉大神と
通い口ふ戸とま^ると^千引^石の
塞坐と拵^ての^言名^{なり}○伊
賦^夜坂^の○出雲國意^宇郡^日
吉村ふ^りの^言と^伊布^夜社^{あり}
○

相對立

あひむきとむしと 許登夜と日 度

とす時ふとぞれとの命れまを 白

孫とくらくき 吾 汝 兄 此 汝 兄 此 汝 兄

如此為 汝 乃 國の人 汝 乃 國の人

一日にちくらくのさくらさむと 綾

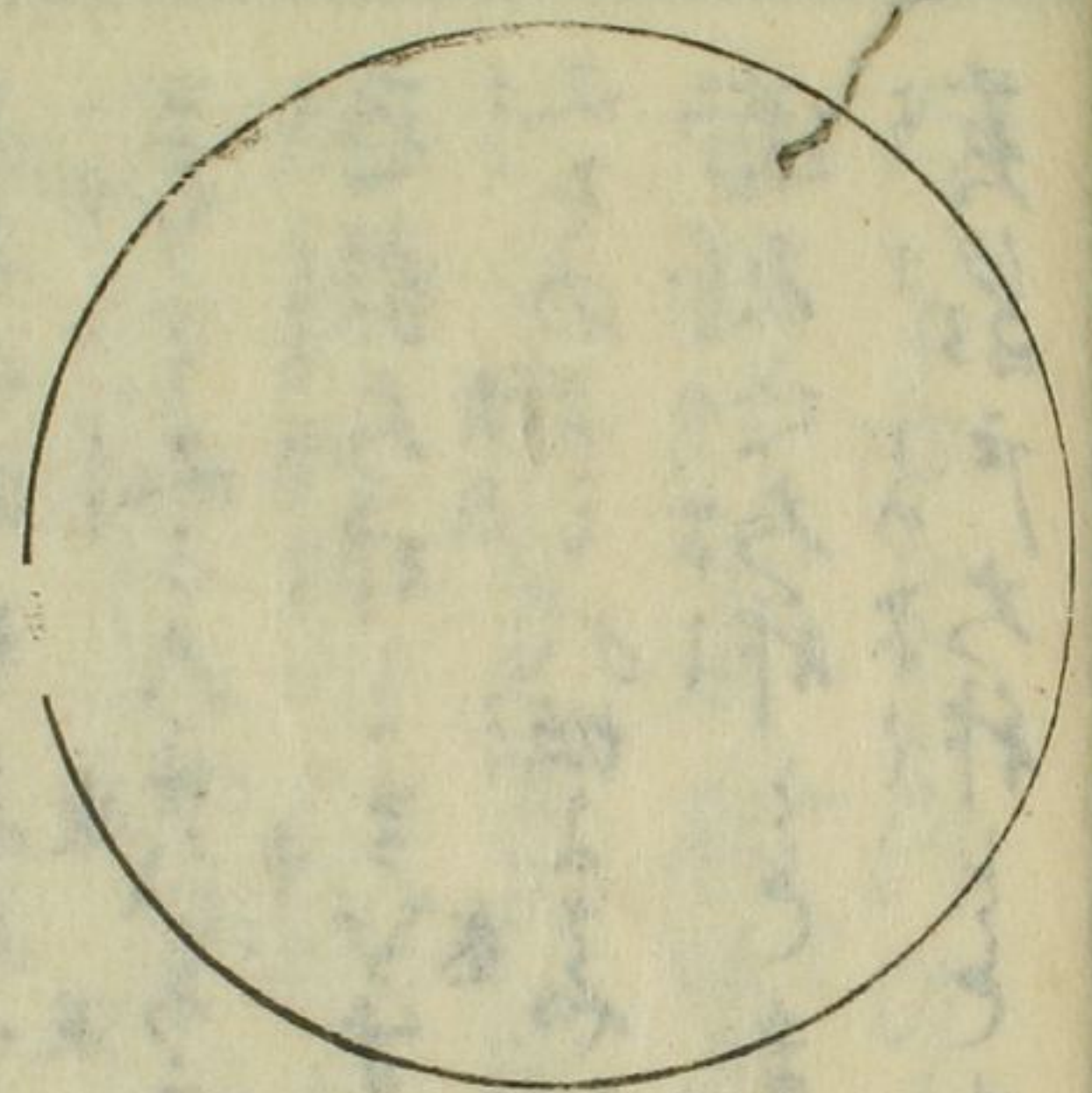
白 孫のふとれぞれに命 白

乃と孫とくらくき 吾 汝 命 汝 命

妹 命 汝 然 為 吾 吾 妹 命

者 一日小あふ百ふやとて 産屋 立

とむしとのたまひおととめて



天照大神林といふ山は雲をたれり
うまをとりしやをたれり
海は白雲下日といふ山は雲をたれり
大いふとち

日向をひむし。道侯をち

まて。冠をふふ也。

大比伴。船戸神より。志津甲斐

辨所神まで。十まり二むらひ

少多小美る物を。脱素うて

ひしよりそなりまをる神より。

瀬弱。つせ。瀬速。つせ

中つ瀬より。降。潘。瀬

瀬。つせ。つせ。つせ

瀬。つせ。つせ。つせ

神乃。津名。八十。福。日。神。次。り

大。福。津。日。神。此。二。柱。を。か。乃。こ

な。よ。し。き。國。よ。り。ま。し。の。

つ。せ。つ。せ。つ。せ

成。ま。せ。系。神。乃。津。名。ハ。神。志。津

神。次。大。志。津。神。次。伊。豆。能

賣。神。次。水。産。よ。り。こ。ろ。の。

成。なり。ま。せ。る。神。乃。津。名。ハ。産

津。海。津。見。神。次。大。志。津。之。男

日向をひむし。道侯をち

まて。冠をふふ也。

大比伴。船戸神より。志津甲斐

辨所神まで。十まり二むらひ

少多小美る物を。脱素うて

ひしよりそなりまをる神より。

瀬弱。つせ。瀬速。つせ

中つ瀬より。降。潘。瀬

瀬。つせ。つせ。つせ

瀬。つせ。つせ。つせ

瀬。つせ。つせ。つせ

瀬。つせ。つせ。つせ

瀬。つせ。つせ。つせ

瀬。つせ。つせ。つせ

瀬。つせ。つせ。つせ

瀬。つせ。つせ。つせ

瀬。つせ。つせ。つせ

瀬。つせ。つせ。つせ

瀬。つせ。つせ。つせ

瀬。つせ。つせ。つせ

瀬。つせ。つせ。つせ

瀬。つせ。つせ。つせ

瀬。つせ。つせ。つせ

瀬。つせ。つせ。つせ

瀬。つせ。つせ。つせ

瀬。つせ。つせ。つせ

瀬。つせ。つせ。つせ

瀬。つせ。つせ。つせ

瀬。つせ。つせ。つせ

瀬。つせ。つせ。つせ

瀬。つせ。つせ。つせ

瀬。つせ。つせ。つせ

瀬。つせ。つせ。つせ

瀬。つせ。つせ。つせ

神直毘神

大直毘神

伊豆能賣神

此之根ハ福と云
くはハ福と云
ハ福と云

底津綿津見神

底筒之男命

ハ二根ハ中ハ
キハハハハハ

中津綿津見神

中筒之男命

ハ二根ハ中ハ
キハハハハハ

上津綿津見神

上筒之男命

右ノ根ハ中ハ
ハ二根ハ中ハ
キハハハハハ

天照大御神

ハ二根ハ中ハ
キハハハハハ

月讀命

ハ二根ハ中ハ
キハハハハハ

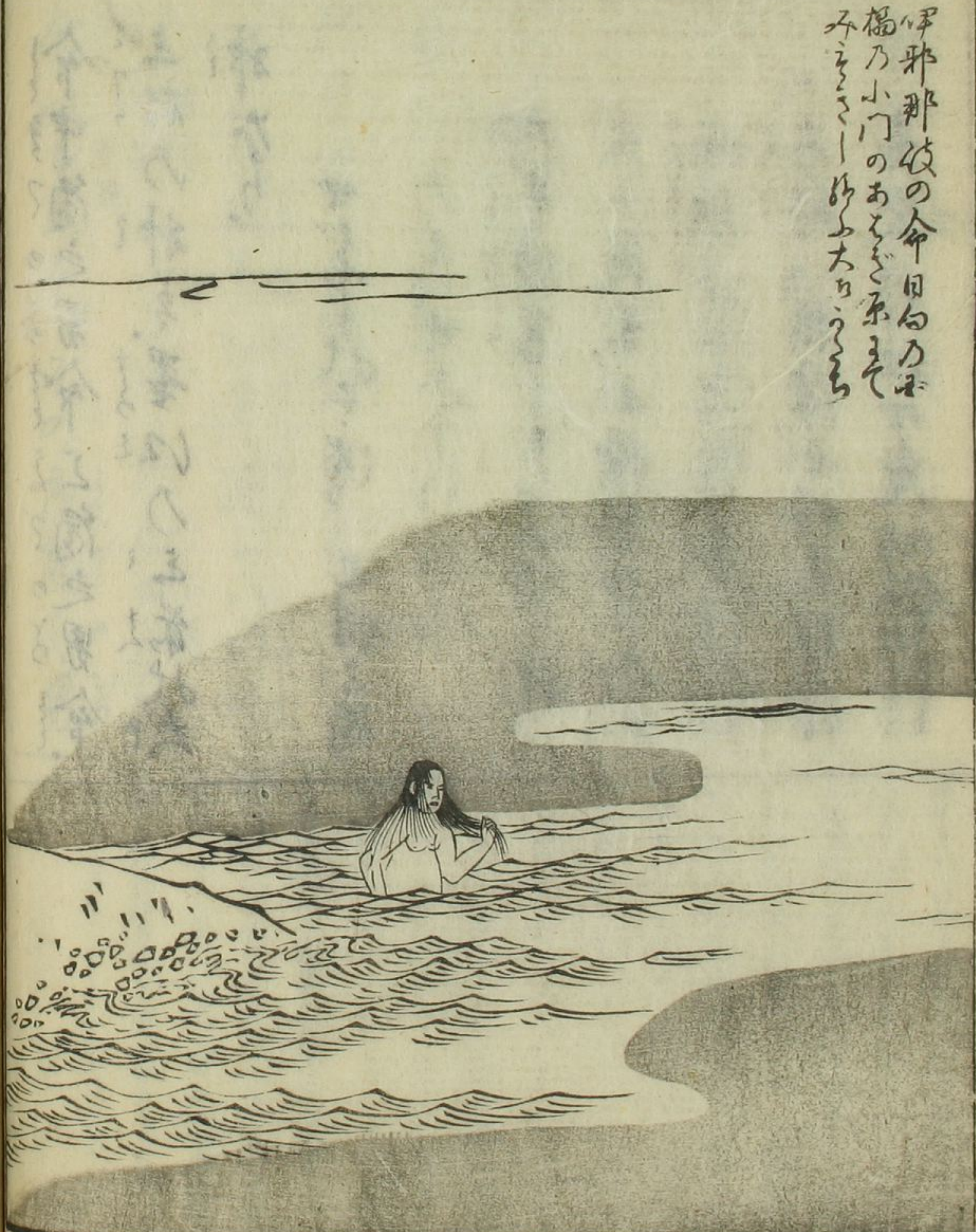
建速須佐之男命

ハ二根ハ中ハ
キハハハハハ



上

伊弉那岐の命日白乃玉
橋乃小門のあそび系玉
みそこまーゆふ大りうら



うにたれ洗目とありし洗
 一時的成まる神乃洗名は
 天照大洗神次はたれ洗目と
 洗ひ洗ひ時よ成まる神の
 洗名は月讀命次は洗名と
 洗ひ洗ひ時よ成まる神の
 神乃洗名は建速須佐之男
 命

月讀命は洗くつこ
 たれをり八十福洗日神より

速須佐之男命まで十まり
 神乃洗名は洗名とそぎ洗名
 ありて生ませる神なり

またあれ

○三柱はづの西子とよき此をり
 此時伊弉册命つとよき此をり
 てのまたまつくは吾は洗子とよ
 くてうみ乃をそい三柱乃づの
 洗子得たりと洗名とよまひく
 すればら其洗頭玉は玉法を

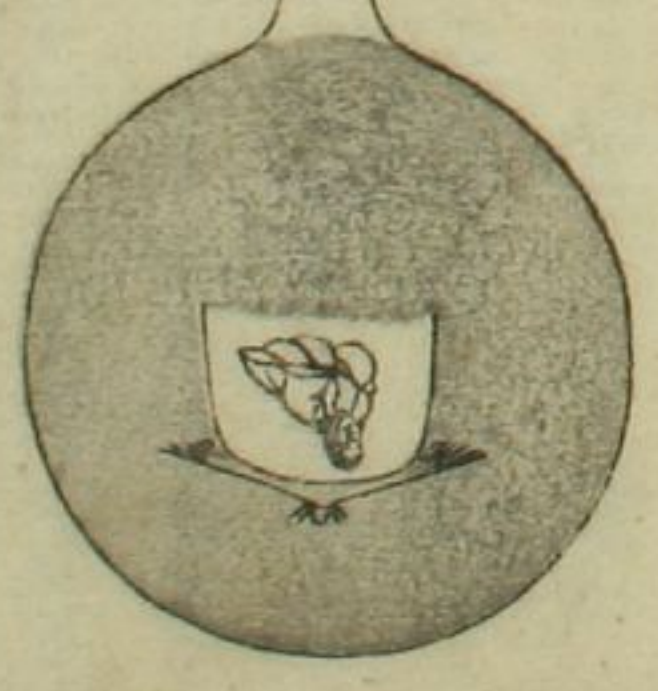
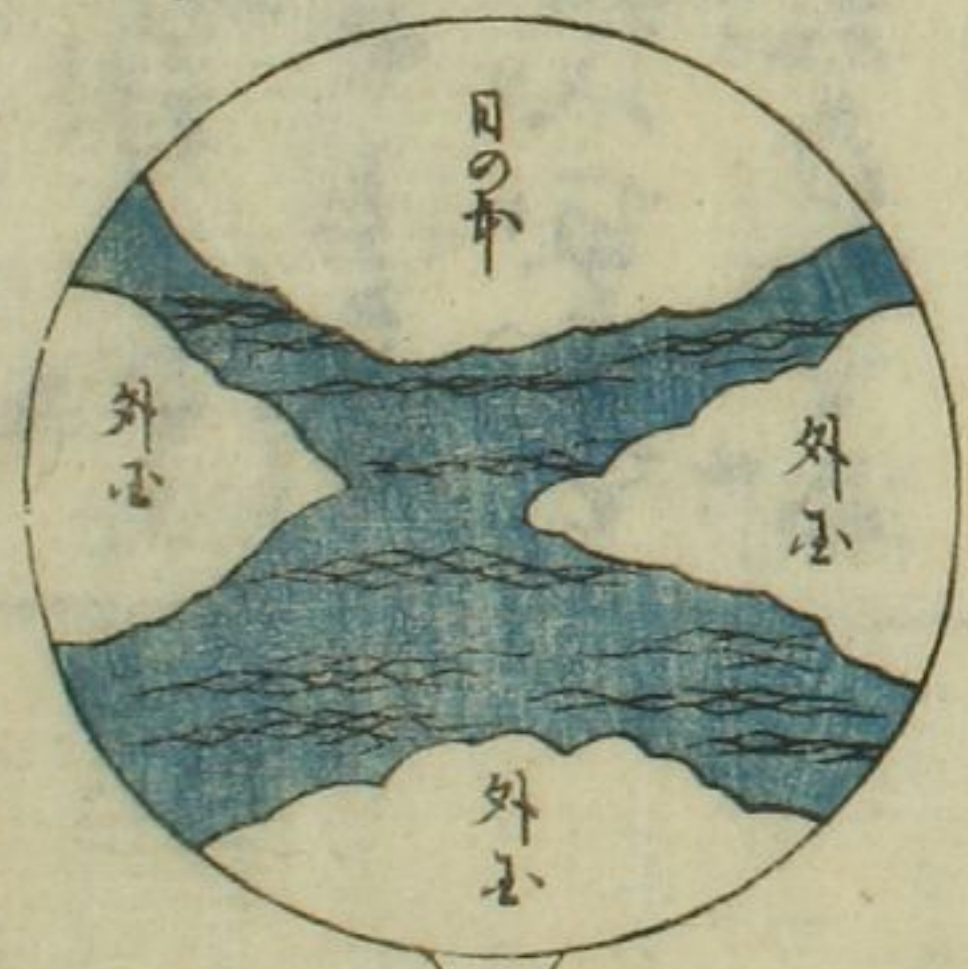
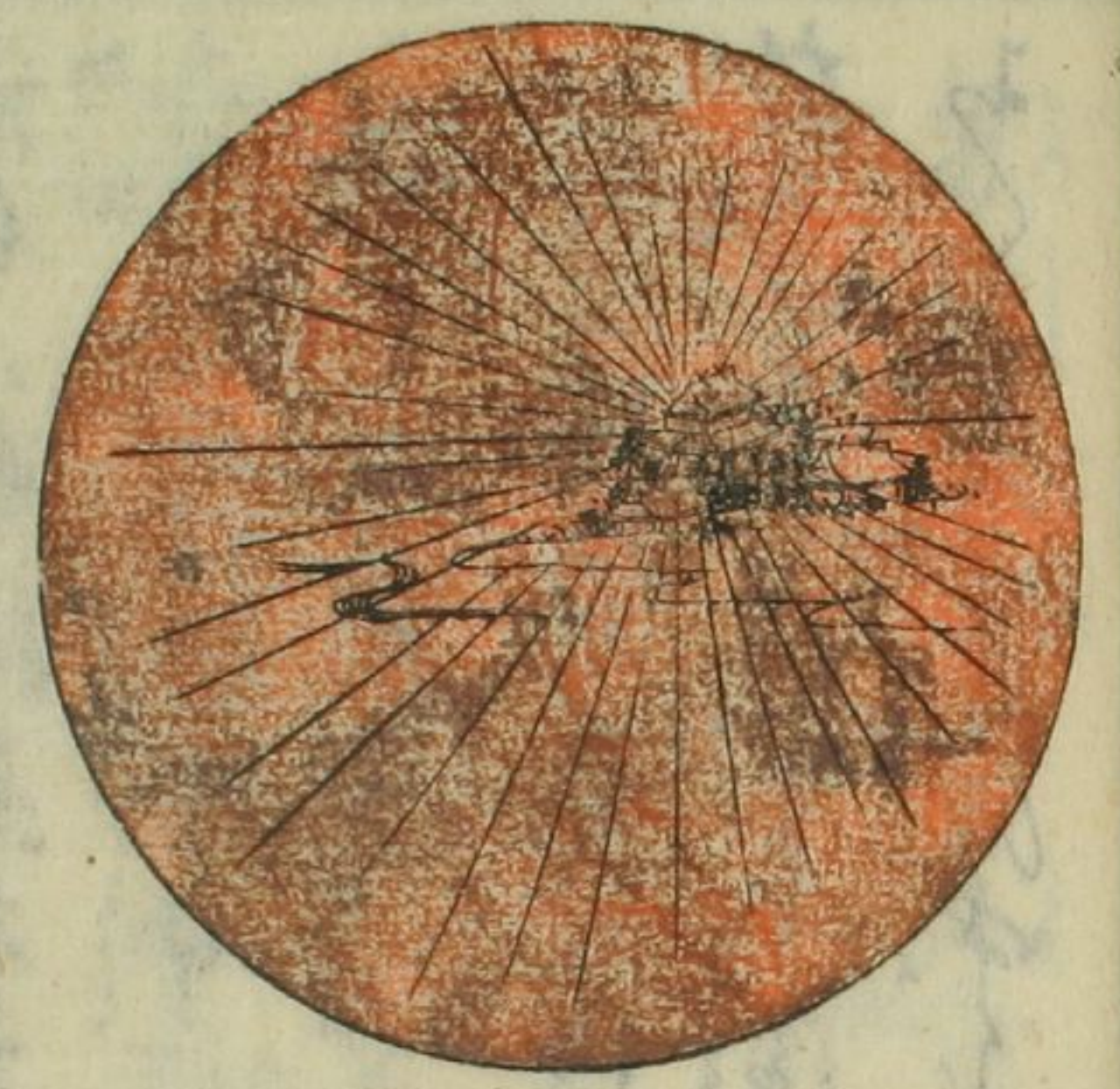
△三柱のつは洗子とよまひく

○この洗頭玉の儲もゆらゆら
 いふ(男女)お玉と儲は連貫て
 頭もと頸もと手足も衣も凡て
 飾はしてつらつらなりゆらゆら
 玉のなる音あり大喜坐て有る中も
 此洗子を慶て貴く所思着す思
 の所所為なり誠小まの人所神と得
 たいく然ありんそ○御倉板
 奉神の御名のまこの御祖神のと
 まいし重き洗くつこて天照大

生坐
 あまのまをせりて伊弉那美命
 のいまを神祖まをせりて
 なすは故二極神まをせりて
 あり。

次は月讀命の足たまはけぬ
 が命の杖之食まをせりて事
 依りて神のよ次は建速須依の
 男命に乃足神まをせりて命を
 海原所知事依
 られしをまをせりてよ
 神のよ。

海原を領し居るの作せしなり
 月讀命の天照大神神ふからして
 天のまをせりて月讀命の男
 命の天の下をまをせりて日
 本紀ふる世をまをせりて月日の
 まをせりて世の趣おふりて
 伊弉那美命のつは御子や高天原
 夜見の國海原とありて此草原の
 中津國を築き居るは皇孫命
 の正しきまをせりて自然
 してまをせりて



天照大神神の御孫まをせりて
 月讀の命の御孫まをせりて
 一む大所なり

食國ハヤスル。うれりの

を清。

又ハ月讀命ハ天照大御神ヨナリ
ナリテ天之事ト志セ。とも月
讀命ハ志満原志ハ八百重
志セ。須佐之男命ハ天ノ下ト志
ラセ。とも志セ。

○須佐之男命也。よそえは辰
故也。のちく。よそえ。強つる命也。ま
みく。ちり。り。中。速須佐之

男命ハ。よそえ。強つる國を志ス
不。拳。須。胸。前。到
オテ。ハ。つ。ひ。ち。む。さ。れ。ま。り
さ。ま。り。く。啼。つ。ち。ち。ち。其。泣。と
ま。ふ。さ。ま。り。青。山。と。枯。山。な。り。す
泣。く。海。川。を。こ。と。ぐ。に。泣
初。き。こ。も。て。つ。つ。方。神
乃。其。れ。ハ。積。魂。を。す。踏。こ。も。と。
美。代。相。乃。こ。も。つ。ひ。こ。と。ぐ。に。お
ろ。り。き。故。伊。弉。那。岐。大。御。神。
と。や。す。さ。め。の。命。に。乃。ち。強

▲須佐之男命はよそえのこころ
○啼くこころまじりて食国は流
而泣小兒忽泣時有此狀と云○青山
と枯山が泣かす海川も泣く小泣
かりき

地のそまつまてと田まきやうと人の
寐中の気血はめぐるやうとちりや
此命はいつく啼くやうとちりや
水気不順ふてちりや故草
木かれりやあつ海川渇水うら
ちと夏ふりや雷のちりや
まても雨久しく更ふりや
ちと此とき人民も多く喜ひ
よとあり○此のまじりて
おとりのまじりて此の須佐之男
命の荒いふりて天に願ふ
と云漢言ていつとつ同気ねも
とむりやあつ悪神とまきか
るまて中古の乱世はちりや
の妖怪もくふあつとまきとも
てあつとつ○我の母の心根は
堅洲国ふまてつんとあつとつ

たく何ともしもみまゝに事休
むる國とあはれまて泣きさら
とけりて母をばまてたまへ
母乃國招の巻海玉にまら
らむとあはれまて泣きさら
一母乃國招の巻海玉にまら
神とあはれまて泣きさら
此はなすまて泣きさら
すれをら神やひまやひま
ひおぬやすまの命たま

かくもまて泣きさら
男命はまこ生まて泣きさら
まひ母の命を慕ひて泣きさら
いけれと母の命はまの泉の汚垢
りやうき白ひ又大神の真ふた
其氣よりまて泣きさら
つゝ母の命はまこ生まて泣きさら
理をあらとて泣きさら
泣きさら
泣きさら
泣きさら
泣きさら
泣きさら
泣きさら

一母乃國招の巻海玉にまら
神とあはれまて泣きさら
此はなすまて泣きさら
すれをら神やひまやひま
ひおぬやすまの命たま

母乃國招の巻海玉にまら
神とあはれまて泣きさら
此はなすまて泣きさら
すれをら神やひまやひま
ひおぬやすまの命たま

又ハ法海乃多賀に坐し海をもと。
あはぢーま 隠 坐

法皇御坐す所と云ひり。
此 申

まことなるり。式も道に必大
 と部多何神社。法路。玉津
 名部。法路。伊勢。奈波神社。糸

○法うけひりたり

故に迷源作。男命。天の御
スヤナサのミコ

たまひり。山川。とく。とく。とく。
國土 皆 震

系つら。これ。ゆ。と。と。天照大神
これ 動

神さき。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
吾 汝 兄

乃のかり。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
善

う。う。う。う。う。う。う。う。
奪

う。う。う。う。う。う。う。う。
纏

の。の。の。の。の。の。の。の。
髻

の。の。の。の。の。の。の。の。
纏

の。の。の。の。の。の。の。の。
持

の。の。の。の。の。の。の。の。
持

の。の。の。の。の。の。の。の。
持

の。の。の。の。の。の。の。の。
持

△法うけひりたり

○山川。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 ○今の震動。雷。電。龍。の。空。
 中。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 ○御。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 ○上。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 結。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 ○八尺。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 ○五。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 ○御。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 ○千。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 ○前。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 ○入。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

③ 天照大御神

天之忍穗耳命
 天之日根命
 天之菩早命
 活津日子根命
 熊野久須毘命

天照大御神
 天照大御神
 天照大御神



天照大御神
 天照大御神
 天照大御神



都は素命

天女は乃おれをすのり

たきりびた乃き徳

つひれぎ徳

うに速酒依も男命天照大御

神乃たれ沸えらふまらるる八尺

の句玉乃いわ川のみすまら此玉

とくひりてはるもももゆふ

天れまれ井ふまらすまらてゆが

えにまらくもらるるいぶきれ

成なりませる神乃沸名を正

勝者猪勝速日天之忍穂耳命又

たれ沸えらふまらるる玉を正

わくしてまらまらわくしてまら

ふらまらまらまらまらまら

沸名は天之菩卑命又沸えら

みまらまらまらまらまら

まらまらまらまらまら

まらまらまらまらまら

まらまらまらまらまら

くまら ○活川日子根命 ○山名
まらまら 活川神より起て生活の事
まらまら 賀言言こと ○熊野久須
毘命 ○熊野の地名に由雲固意
宇那の熊野まらまら久須毘の久志
を約まらまら久志の奇盛まらまら

天照大御神

まるや海をこひしうしてきつみ
 ひこして吹うらむつぎにききり
 成坐る神乃湯名ハ清津日子根
 命又た其湯名にまきうまど
 ひこしてまきりかして吹う
 つつぎにききりふなりませふ
 神乃湯名ハ徳聖久須思命
 正勝者猪勝速日付まきり
 あうのうらまやびび湯
 ○ひと湯子ひあ子沖別れの辰

△日古湯子ひあ子沖別れの辰
 ○妻小天照大神速須佐之男命
 一のついでに日古湯子

うに天照大神速須佐之男命
 小のうとひてく此後まはさま
 せ海に柱乃ひと湯子ハ相実者相
 まらりてなるまきり故あつて
 けが湯子なりしふあまませるこ
 柱乃ひと湯子ハ相実者相の
 ありて成まきり故すれら女
 乃湯子なりかくのうとわきひ
 き
 相実者ものぎね 女をみ

又丹の命(仰せられし)のついでに
 ○此後ふは坐る五柱の彦の子(物実
 あまののやうてかり坐うたおのつ
 けが湯子なりし)天之忍穂耳命
 たり(熊野久須思命)五柱の男子
 けが湯子のまきりてかりませ
 とりてこの我身のまきりよの
 けが湯子なりし)即ち五柱の
 と仰せられし)有る○先づあれ坐
 る三柱の姫の子(のまきり)けが湯
 子なりし)故即ちまきり此湯子
 かりし)五柱の男神(より前
 ぶありませ)むけりて筑前国宗
 像三社の神(かり)天照大神の仰
 らる)あまのまきりてありませ
 とりて)あまのまきりてありませ
 る)あまのまきりてありませ

まふ清み。 橋いひ。

○天乃石屋戸乃きり

故らに天照大神神みりしきみ

天の石屋戸とあそびせしきり

まじりきき故き天原之れ

第原かおととてしきり

おゆくしき萬乃神の牛之れい

さそふなれ之れとれあはれ

ひしきふおたりきとてしきり

八百乃神天乃安れ

△天の石屋戸けり

○天乃石屋戸乃きり

○かききもあそびせしきり

○天の石屋戸とあそびせしきり

○まじりきき故き天原之れ

○第原かおととてしきり

○おゆくしき萬乃神の牛之れい

○さそふなれ之れとれあはれ

○ひしきふおたりきとてしきり

○八百乃神天乃安れ

○天つしきり

○大庭造の神現命、世孫天河

神集

おむつひしきひく高湯煮菓日

神乃神子思令神又思しき

常世乃長鳴をてしきり

しきり天安河乃河系れ

學石とて天の重れ

伊弉許理夜賣命にせしき

鏡とてしきり

て八尺れ向玉れ

るれ玉とてしきり

麻良命之後とてしきり

○天つしきり

○大庭造の神現命、世孫天河

○天つしきり

○伊弉許理夜賣命

○天つしきり

○天つしきり

○天つしきり

○天つしきり

○天つしきり

○天つしきり

○天つしきり

○天つしきり

○天つしきり

○天つしきり

○天つしきり

裳紐 陰上 神坐
 まり動 天原ゆすりて心百葉此神共の
 咲 日くひき

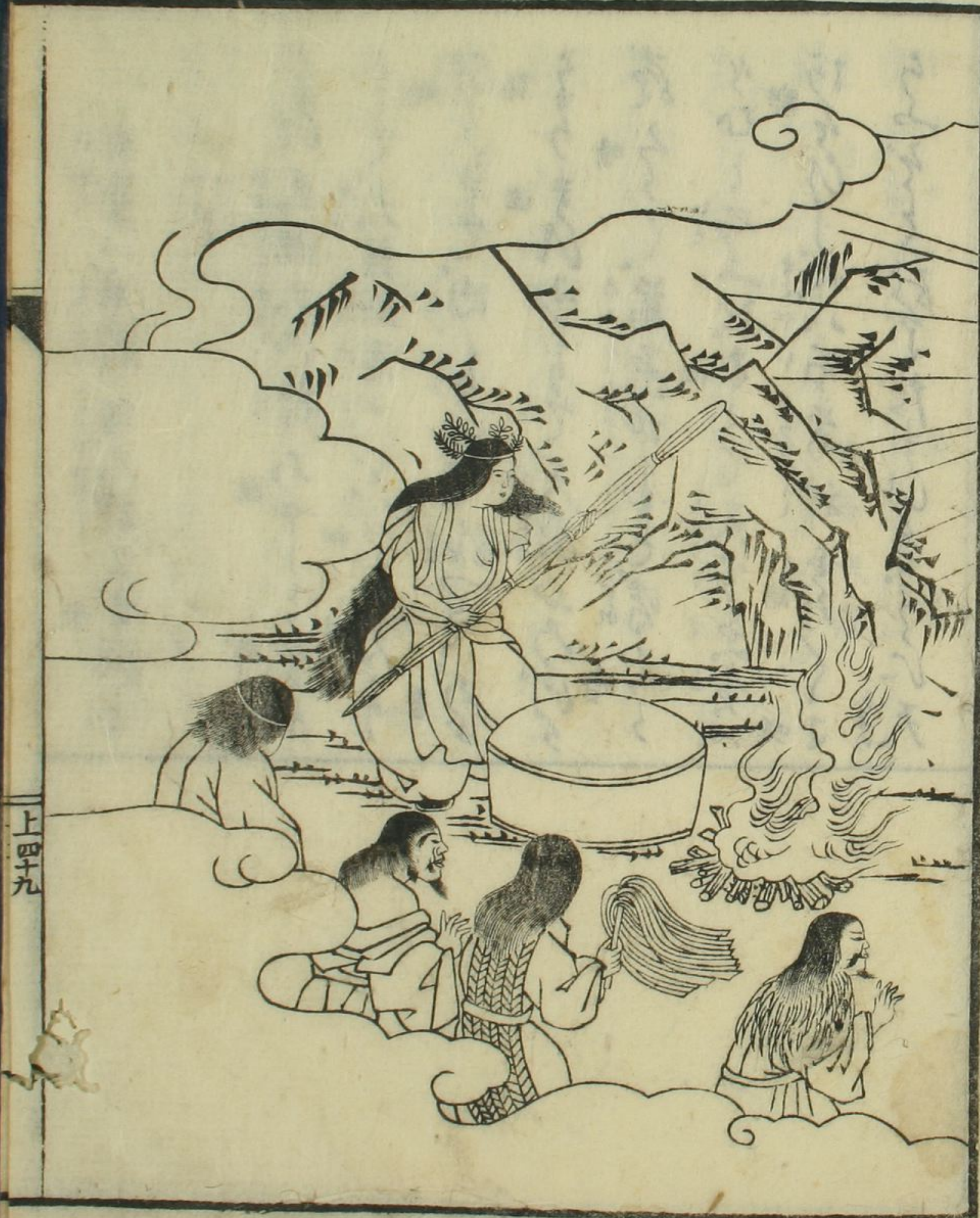
ま、極下れど還、上殺
 と、ほつえ、又うらつえ、
 志げえ、又志げえ、
 乃て清ら

又、伊弉許理度妻命に於て

て天照大神神の御像乃鏡及ま
 日等々作む、うに甚鏡不ど
 合意 ぬ、う海あまき、
 坐 ます、日若大神れつぎなり、
 且、佐甚美麗まろり、
 守り、ととあり

日若と、の乃とま、
 式、伊弉許理度妻命、日若神、
 社、名神大月次、國馬神、社、名神大月次、
 社、名神大月次、國馬神、社、名神大月次、

○御像の後、
 の御像と、
 ○尻久未繩、
 今、
 ○今神職、
 神と、
 ○千位、
 解除と、
 ○、
 手足の、
 ○、
 今、
 神代より



上四九



天北石堂元名開之
落大甲之

ひびき 日牙ハ此國為大神坐又まはくと

いつと

らに天照大神怪あやと所念とおひ

して天北石屋戸細目とほそ吾先り

ひつきそ開て吾回ち吾結吾了吾ハ吾あが

より暗まほ暗あより暗て天原おろけ

舞暗々々暗華原中暗あも暗皆々暗

々む樂と樂あふ樂と樂なと樂て天字樂更費樂ハ

何樂を樂び樂又樂八百樂葉樂神樂も樂あ樂く樂こ

らふ樂ぞ樂と樂結樂了樂たま樂ひ樂そ樂ら樂に樂天

宇更費勝汝命貴に勝ま貴り貴て貴た貴ふ貴と貴さ

神坐つ坐ま坐は坐が坐ゆ坐あ坐ふ坐あ坐ぎ坐何坐も坐あ坐は

ま白き白さ白か白く白ま白を白み白あ白ひ白ご白に白天

出差屋差命差布差力差玉差命差か差乃差鏡差と差さ差り

出奉く奉天照大神奉は奉見奉を奉ま奉り奉の

時所よ所天照大神所つ所ま所は所り所と所と所お所は

と念り念て念や念戸念より念出念て念の念ぞ念ま念ま

す立時立よ立か立の立あ立り立た立る立せ立る立天立女立力

男神立其立湯立と立と立り立と立り立引立か立り

まつ奉り奉ま奉さ奉す奉れ奉ら奉布奉力奉玉奉命奉尻

久延繩くえんじゆと。その後後方志しをを一ひとままりりとと入い坐ざ
して此處。くくららとと内うちににななららずずとといいふふまま
ししそそととままままととししののきき故ゆゑ天あま照てら大おほ
沙さ神かみ出い坐まうう時ときにに言こと天あま原はらとと華はな
原はら中なかつとと色いろののづづつつととりりいいりりきき。
照あ明くら

命いのちいいななららみみとと。

又また天あま照てら屋や命いのち廣ひろくく原はらくく禊け禊け
祈いのち白しろののままととすす時ときにに天あま照てら大おほ沙さ神かみとと祈いのち
聞き者ものししててははららししととけけらら乃すなはちち
ととままととすす者ものハハささららふふああららじじとともも其その

言こと此こゝののづづららううかかららききハハああららじじ
すすののししののききととすすれれととらら大あま比ひ石いし
屋やととけけららししととききとと乃すなはちちとときき
坐まききとといいふふ。

禊け禊けととああららじじとと。

ととににハハ百ひゃく箇ご神かみととももににささららりりてて遂すなはちち
須す作さく之の男おとこ命いのちににちち任にん重おも産うとと地ちとと也なり
セせ又また禊けととききりりはは是こゝれれととももぬぬ也なり
ううけけららじじとといいふふ。

